

秘密の恋逢瀬の舞台

文人の武蔵野

荒川と多摩川の間に形成された地形に命名された武蔵野台地、行政機関が地図上に線を引いてこしらえた現在の武蔵野市、JRの路線や送電線の呼び名としての武蔵野線、遊園地の名称であるむさしの村など、「武蔵野」という記号を過去の文化遺産として譲り受けて、そのイメージを刷新している事例はたくさんあ

詠み人知らず



多摩川近くに建てられた万葉歌碑(狛江市で)

ります。文獻における武蔵野の起源を遡ると万葉集に行き着きます。万葉集で武蔵野が詠まれた最初の歌「武蔵野にトヘカタ焼きまさでも告らぬ君が名占に出にけり」(33374)には、秘めやかに交際してい

た「君」(女性から男性への尊称)の名がしかるべき占いにより知れるところとなりて、恋の行く末を案じる女心がうたわれています。歌人の名は詠み人知らず。古代における匿名の女性が内緒にしていた逢瀬の舞台が武蔵野だったことになりました。そして、大事な個人情報であった名前が「かた焼き」の占いにより露見してしまう場所として、武蔵野の地名が初めて歌の中に刻まれた瞬間でした。

文人によって発見された近代の武蔵野は、野から林へとその舞台を移し、郊外散策を通じて個人の思索を深める空間となります。他方で、古から恋路となり友情を育む自然の舞台を提供してきたその役割は、継承されるのです。(武蔵野大教授、むさし野文学館館長・土屋忍)

おすすめの1冊

「万葉集」

「万葉集」20巻は、およそ4500首を収録する日本最古の歌集です。歌の作者は無名の男女、農民、防人、宮廷歌人、天皇など様々。注釈が分かりやすいのが岩波文庫版(全5巻)です。多摩川や武蔵野を詠んだ歌は、東歌として第4巻に収録されています。



(岩波書店提供)